

# SYLLABUS

2024 年度 春学期

# 教職課程

青森公立大学

経営経済学部

# 目 次

年次	授業科目名	単位	区分	担当	頁
1	教職概論	②	必修	西村 吉弘	1
	教育心理学	②	必修	鈴木 郁生	4
	健康とスポーツ I	①	必修	今村 秀司	7
2	教育行政論	②	必修	内海 隆	9
	特別活動指導法	①	必修	渡部 靖之	12
	憲法概論	②	必修	小林 直樹	14
3	教育方法と情報通信技術	②	必修	鈴木 郁生	17
	進路指導の理論と方法	②	必修	内海 隆	20
	中等教科教育法（商業 I）	②	必修 （商業）	砂場 孝一郎	23
	商業実習	④	必修 （商業）	砂場 孝一郎	26
	中等教科教育法（公民 I）	②	必修 （公民）	長谷川 光治	30
4	教育実習事前事後指導	①	必修	内海 隆	32
				鈴木 郁生	
				西村 吉弘	
	教育実習	②	必修	内海 隆	35
				鈴木 郁生	
				西村 吉弘	

**2021年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」 「1200～」 「1210～」 で始まる学生）**

（1）「教育方法と情報通信技術」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「教育方法論」の読替科目です。

<b>〔科目名〕</b> 教職概論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修科目)
<b>〔担当者〕</b> 西村 吉弘	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 初回の講義で連絡する。 <b>場所:</b> 同上。	<b>〔授業の方法〕</b> 講義及び演習
<b>〔科目の概要〕</b> 基本的な教職の理念、歴史、制度、実態など多面的な視点から学び、教職に対する理解を構造的に捉えることや、自己の教師としての自覚を深めることを目的とする。 児童生徒として見てきた教師像の形成に終始することなく、教師に課される職務を取り巻く構成や獲得すべき技術、更に刻々と変化する社会からの要請等、多面的に教職を捉えることによって、教師の全体像を掴むことが重要である。 本授業では、現代の日本の教師に求められる能力や職務の実態を学ぶことにより、その重要性や課題、問題点を総合的に理解することを試みる。		
<b>〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 本授業は、教職を学ぶ上で入り口になる科目である。社会情勢の中で、学校の存在や教師の役割は時代と共に変化しており、これらを踏まえ教師になるうえでの素養を身に付けることが必要となる。よって、多面的な視点から教職に対する理解を深めることで、教育者としての資質能力の向上を目指すものである。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 本授業では、学校の教師という職業の実態を理解し、自身が目指す教師像と、そこへ至るために必要な力量形成について、具体的に考えることができることを目指す。そのため、以下の到達目標を設定する。 1 職務内容や使命、意義を理解する。 2 社会的な背景を踏まえ、日本の教師の特性と課題を理解する。 3 めざす教師像を自らアウトプットすることができ、また、そのための力量形成を追究することができる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 特筆すべきものがあつた場合、コメントをする。尚、学生との対話は歓迎する。		
<b>〔教科書〕</b> 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ネルヴァ書房(2019)		
<b>〔指定図書〕</b> 必要に応じて、授業中に案内する。		
<b>〔参考書〕</b> 岩田康之・高野和子編著『教職論』学文社(2017)		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 基本的に、期末試験とレポートで判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。 提出されたレポートの結果や傾向については、授業内で解説を行う。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 評価基準の割合:期末試験 80 点、レポート 15 点、平常点5点。		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。		
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。		
授業スケジュール		
第1回	テーマ(何を学ぶか): 教育学と教職論 内 容: 教育学と教職論の関係における構造を学ぶ。 教科書・指定図書『教職論』	

第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育実践を支える教育法規 内 容:日本国憲法や教育基本法などの、学校教育の基本法制を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):教員養成・採用・研修の一体化 内 容:教員養成における採用や研修、力量形成について一体的に学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):チームとしての学校 内 容:中教審答申に見られる「チームとしての学校」の背景や、専門スタッフとの連携を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):児童虐待問題と学校・教職員の役割 内 容:児童虐待を捉える視点や、対峙する際の教員の利点と役割を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校と学童保育・放課後子ども教室との連携 内 容:放課後子どもプランの成立や、放課後の学校化問題を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):いじめ問題への対応 内 容:いじめの定義、捉える視点、構造、問題発生時の対応を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):安全・安心の学校づくり 内 容:学校事故と教師の責任、学校の危機管理を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):省察 内 容:第8回までの授業をふり返り、教職とは何かについて再構成する。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の教師の役割と特性 内 容:学校の変化と教師の専門性の変容を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):教師の職能成長 内 容:教員に要請される能力の変遷と、研修、地域との協働を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):教職への学びー教員養成の学び全体から考える 内 容:教職課程の構造、省察と教師の成長、実践の問い直しの重要性を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):教師の力量形成ー学び続ける教師 内 容:教師のキャリア、ノンマニュアルとしての教師について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):教師の力量形成ー反省的实践家としての教師 内 容:省察を通じた教師の学びについて、実践事例から検討する。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>

第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内 容:これまでの学習全体の、まとめやふり返しを行う。  教科書・指定図書『教職論』
試 験	レポート。

<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;">教育心理学</p>	<b>〔単位数〕</b> <p style="text-align: center;">2 単位</p>	<b>〔科目区分〕</b> <p style="text-align: center;">教職科目(必修)</p>
<b>〔担当者〕</b> <p style="text-align: center;">鈴木郁生 SUZUKI Ikuo</p>	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に明示する <b>場所:</b> 614 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> <p style="text-align: center;">講義</p>
<b>〔科目の概要〕</b> <p>教育心理学とは、教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から客観的に検討する学問である。本科目では、教育実践の基礎となる教育心理学の理論や知識について幅広く学んでいく。具体的には、発達、学習に関連する教育心理学の基礎領域について学ぶ。発達領域では、乳幼児から青年期までの心身の発達について、学習領域では人間の記憶や認知などの学習過程の基礎及び教授法について学ぶ。この授業を通して教育心理学の様々な内容に触れ、その知識を教育実践の場で効果的に役立てられるようになることを期待する。</p>		
<b>〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>本科目は教育職員免許法に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」であり、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」の事項に関わる科目である。教員免許取得のための必修科目として定められている。</p> <p>教育実践の場に立つためには、ただ教える教科の内容や技術だけを学ぶだけでは不十分である。そこで本科目において、その実践の支えとなるような理論、根拠となる知識について学ぶ。例えば、幼児・児童または生徒と向き合うためには、その年代の子どもの心身の発達についての知識が役に立つだろう。あるいは記憶や学習過程への理解は、子ども達の学習を効果的に支援するために必要となる。</p> <p>このように、本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>授業評価では、概ね肯定的な評価をしてもらっている。また教室環境に、より気を配っていくつもりである。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>使用しない。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>なし。</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>授業時に適宜紹介する。</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>なし。</p>		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> <p>試験を行う。また授業中に適宜課題を課す。</p>		

**〔評価の基準及びスケール〕**

期末試験や課題等により、総合的に評価する。

- A: 100～80 点
- B: 79～70 点
- C: 69～60 点
- D: 59～50 点
- F: 49～ 0 点

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

教育心理学について、ただ知識として伝えるのではなく、そのような知見が得られた過程についても話していくつもりである。受講者は、用語や理論をただ暗記するのではなく、その根拠や研究過程についても理解するよう心掛けて欲しい。また受講者の理解が進むよう、具体的な例を挙げながら授業を進める予定である。受講者も好奇心を持ち、自らの経験等に照らしながら学習を行ってほしい。

**〔実務経歴〕**

該当なし。

授業スケジュール	
----------	--

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション・教育心理学と研究法 内 容: 教育心理学の歴史や領域、研究法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発達段階と発達課題 内 容: 発達段階や発達課題など、生涯発達に関わる基礎的理論・概念について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 感覚知覚および運動に関する発達過程 内 容: 感覚知覚および運動に関する発達過程について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 言語および社会性に関する発達過程 内 容: 言語および社会性に関する発達過程について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 知的側面にかかわる発達 内 容: 認知、思考に関するピアジェの発達理論の解説。感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期それぞれの特徴について概説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 道徳性の発達 内 容: 道徳性に関する発達心理学の知見について紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青年期の発達の特徴と同一性 内 容: 青年期を取り巻く状況や青年期に生じる発達の特徴を通じ、青年期観を問題とする。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学習理論(古典的条件づけ) 内 容: 古典的条件付けを中心に学習理論を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学習理論(オペラント条件付け)          内 容: オペラント条件付けをはじめとする学習理論について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 動機づけ          内 容: 内発的動機づけと外発的動機づけについて学び、その関係についても解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 認知機能と学習          内 容: 記憶・思考の基本的なメカニズム、および学習に関わる特性について紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学習教授法          内 容: 集中学習・分散学習や受容学習・発見学習など、学習や教授の方法および評価に関する考え方について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 集団とその心理的特徴          内 容: 集団規範やソシオメトリーなど学習集団に関する基礎的知識を理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会情緒的側面と学習          内 容: 社会情緒的側面と学習について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育心理学の今日的課題          内 容: 教育心理学における今日的な課題について論じる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

<p>〔科目名〕 健康とスポーツ I</p>	<p>〔単位数〕 1単位</p>	<p>〔科目区分〕 アカデミック・ コモンベージックス</p>
<p>〔担当者〕 今村 秀司</p>	<p>〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:</p>	<p>〔授業方法〕 実技中心</p>
<p>〔科目の概要〕</p> <p>スポーツは心身の発達を促し、人間性を豊かにし健康で文化的な生活を営む上で極めて重要な役割を果たすものである。生涯にわたってスポーツの楽しさを享受し、健康や体力の維持増進を図っていくために広い視野からスポーツを選択し、自身の技術向上と基礎体力の充実を目指す。</p> <p>更に仲間と協力することにより、協調性と責任感を身につけ、心身の健康についても配慮できるようにする。</p> <p>そのために、多くの仲間と相手を変えながらゲームを展開するなど、より充実した活動を実践し、継続してスポーツ活動ができる能力や方法を身につけさせる。</p>		
<p>〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</p> <p>スポーツは、人間の身体的・精神的欲求に応え、健康と体力を保持増進し、私達の人生を豊かで充実したものにしてくれる世界文化の一つである。「スポーツ」をすることは、単に趣味としてだけでなく「健康と体力づくり」、「人づくり」、「仲間づくり」のための手段として価値があり、明るく活力のある社会の形成に大きく寄与する。ここに開講されるスポーツ実技は、スポーツの文化的側面を深く理解し、運動の合理的な実践を通して、生涯にわたり健康な生活を営むことができるようになることを目指している。</p>		
<p>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</p> <p>受講生の経験・興味・関心・技術に応じて、主体的に各種のスポーツ種目を選択し、基本技術・応用技術を学びながらゲーム中心に学習する。実践に際しては、正式のルールをベースに、簡易ルールの採用も可とした攻防のゲームを行いながら、選択種目をさらに深く理解し、個々の技術向上と体力増進を図る。また、仲間づくりや集団生活における自他の再発見の場として、スポーツ活動の楽しさを体感する。</p>		
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>学生からの要望があればそのつど可能な限り対応して行きたい。これまで「授業評価」に基づき工夫・改善に努めてきたが今後も続けていきたい。</p>		
<p>〔教科書〕 なし</p>		
<p>〔指定図書〕 なし</p>		
<p>〔参考書〕 なし</p>		
<p>〔前提科目〕 なし</p>		
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p><u>選択したスポーツ種目の出席参加状況</u>、グループの一員としての役割分担、服装などの受講態度等を総合的に判断して評価する。また、スポーツ・体育実技の評価については、原則として次の基準によって行なう。</p> <p>◎ 運動の特性の理解度 ◎ 意欲・公正さ ◎ 技術の習得度</p> <p>・平常評価 100点</p> <p><u>選択したスポーツ種目の出席参加状況</u>、及び、受講態度による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。</p>		

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 B:79～70 C:69～60 D:59～50 F:49点以下

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- ・スポーツとは本来人間にとって大きな楽しみの一つであるが、基本的なルールや技術を身につけなければ楽しむレベルに到達することはできない。高校時代に厳しい部活動を経験してきた学生も多いと思われるが、別の視点にたつてスポーツに取り組ませたいと考える。学生諸君には、積極的に体を動かしよい汗をかくことをおおいに期待したい。
- ・運動に適した服装とシューズで受講すること。(ワイシャツ、ジーンズ等は認めない。内靴外靴の区別をする。体育館内では内靴を厳守)

〔授業スケジュール〕

授業の目標を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球)の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。  
また、準備運動(アップ)・整理運動(ダウン)の重要性を理解させケガ防止の意識を高める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や受講者が少なくチーム編成できない場合は、実施種目を制限することがある。

〔実施内容〕

- ・スポーツ種目の選択、グルーピング、学習過程・安全についての説明。
- ・各種スポーツ種目の基本技術の知識と練習、採用ルールの確認。
- ・安全に身体運動、スポーツ活動を行うためのウォーミングアップとクーリングダウンを**主体的に**実践できるよう確認。
- ・ゲーム分析・戦術などの検討をし、**レベルアップした質の高い攻防のゲーム**を目指す。
- ・グループでの役割分担、仲間としての責任感と協力心を培う。

〔実施種目と内容〕

テーマ(何を学ぶか): **バレーボール**

内 容: 基本的な技術、ポジショニング等チーム内でゲームを通して学びながら、**質の高い攻防のゲーム**を目指す。

テーマ(何を学ぶか): **バスケットボール**

内 容: 基本的な技術、ディフェンス・オフェンスにかかわる戦術についてチーム内でゲームを通して学びながら、**質の高い攻防のゲーム**を目指す。

テーマ(何を学ぶか): **バドミントン**

内 容: 各種ストロークやフットワーク等の基本技術とゲーム展開のための応用技術・戦術を学び、ダブルス・シングルのゲームを通して**質の高い攻防のゲーム**を目指す。

テーマ(何を学ぶか): **卓 球**

内 容: 基本的な技術を身に付け、ダブルス・シングルのゲームを通して応用技術の体得・戦術に工夫を加え**質の高い攻防のゲーム**を目指す。

〔試験〕・平常評価 100点

出席状況、及び受講態度による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。

<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;">教育行政論</p>	<b>〔単位数〕</b> <p style="text-align: center;">2 単位</p>	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 内海 隆 Uchiumi Takashi	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 初回の授業の際に提示する。 <b>場所:</b> 504研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 教育行政(educational administration)とは、国民の教育の実現を保障するためのシステムであり、営みである。この講義では、学校教育との関係を中心に、教育行政の理念、組織、役割等について講義する。また、わが国の教育行政制度及び諸外国の教育制度等も概観するとともに、近年のコミュニティスクールなど学校と地域との連携による学校運営や学校の危機管理等についても取り扱う。 なお、教育行政に関する理解を深めるため、関連する法規を体系的に整理した資料を配付し随時解説も行う。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b> 本科目は、教育法規や教育制度、組織についての基礎となる科目であり、「教育原論」とともに基本となるものである。したがって、この科目を学ぶことにより、今日の教育のしくみや在り方を考えることにつながり、教育上の諸課題を探究していく姿勢を培うことになる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 教育についての組織や制度に関する法的視点にたった基本的な理解を深め、それをベースに教育上の課題を自分なりに考えることによって、教職に関する関心や意欲等のモチベーションを持たせる。 特に、1)近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。 2)文部科学省、教育委員会の組織と運営、及び学校の管理運営に関する法的根拠等を理解する。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 教員自身の経験からも法規中心の授業展開だと興味のわかない内容になるので、教育に関する最低限の法令等も含めて整理したプリント(冊子、資料)等を提供する。		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない。教員作成のプリント冊子を用いる。		
<b>〔指定図書〕</b> 汐見稔幸監修『教育制度を支える教育行政』(アクティベート教育学5)、ミネルヴァ書房		
<b>〔参考書〕</b> 安達和志著『教育と教育行政の法理論』、エイデル研究所 なお、教職を志すのであれば、『教育小六法』(出版社は問わない)を購入・携帯すること。		
<b>〔前提科目〕</b> 「教育原論」を履修しておくことが望ましい。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 教育に深い関心を持ってもらうため、指定テーマに関するレポート(2回)を課して評価する。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> レポートと授業での発表等を参考にし、下のスケールで総合評価する。 A: 100～80点 B: 79～70点 D: 69～60点 E: 59～50点 F: 49～ 0点		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 教職課程の基本科目であることを十分認識した上で授業に臨むことを希望する。また、「教育基本法」を核にして必要最低限の法律(法規と条文)を覚えることが教育行政の理解の早道となる。 また、必要に応じ事前配布のプリント冊子とは別に資料等を配布するので、教職を強く希望する学生は、教育法規を中心に毎時の授業の予習と復習をしっかりとやって欲しい。		

<p>〔実務経歴〕 該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:講義のねらい・方針と授業の進め方 教育行政(論)への接近(学ぶ意味)、教育と教育政策</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):国家の一般行政と内務行政 内 容:教育行政を成立させている要因</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):近代公教育制度と教育行政(1) 内 容:公教育制度の成立と理念</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):近代公教育制度と教育行政(2) 内 容:教育行政の発達と解釈論</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):わが国の教育制度と教育行政(1) 内 容:「学制」期の教育制度とそれ以前の教育形態 文部省下の教育行政制度</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):わが国の教育制度と教育行政(2) 内 容:現行の学校制度と教育行政、各種審議会</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):わが国の教育行政の特質 内 容:文部科学省と地方教育行政、教育行政に関する法改正の趣旨、地方公共団体の長と議会</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):諸外国の教育制度と教育行政(1) 内 容:欧米主要国(アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス)の学校制度と教育行政の概要</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):諸外国の教育制度と教育行政(2) 内 容:アジア諸国の学校制度と教育行政の概要</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):生涯学習行政の役割と今日的課題 内 容:社会教育と社会教育行政 生涯学習振興法と生涯学習行政</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校運営の法的根拠 内 容:職員会議、校長と教諭、主任制度、学校評議員制度 教育課程(カリキュラム)編成の主体、学習指導要録</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>

第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):教科用図書(教科書)と検定制度          内 容:教科書検定制度の経緯と補助教材、教科書採択権</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育費と教育財政          内 容:教育費について          教育予算の成立過程</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育行政(=制度)の理論における教育権論争問題          内 容: 教育する権利(機能・権限)の意味(教義)          教育行政の責任(論)と住民自治</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育行政の整理          内 容: 教育基本法の要点、法改正後の教育委員会(制度)</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
試験	<p>実施しない。評価レポートを課す(2回)。</p>

<b>〔科目名〕</b> 特別活動指導法	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修科目)
<b>〔担当者〕</b> 渡部 靖之	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義・演習
<b>〔科目の概要〕</b> 前半では、特別活動の内容とねらい、教育課程における位置づけと他教科との関連性について講義する。 後半は、各場面における具体的な指導項目について、実践上の課題と評価方法について演習形式で学ぶ。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 学習指導要領では、教科外に位置づけられる特別活動は、我が国の学校教育において、各教科の学習と同等に重要な活動である。特に、社会人として求められる「生きる力」を、特別活動によって直接育むことができるという意味では、各教科以上の意味があるとも言える。 1 年次に履修済みの「教職概論」や「教育心理学」、2 年次の「教育行政論」、また今後履修する「教育方法論」、「進路指導の理論と方法」等、他の教職科目との関連性も踏まえつつ、特別活動の持つ意義について学ぶことは、これからの「VUCA」の時代の教員として不可欠である。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 中学校及び高等学校学習指導要領が示す特別活動の目標を達成するために必要な実践的指導力を身につける。 具体的には、次の3点を掲げる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別活動の目的と歴史の理解を通じて特別活動の意義を知る。</li> <li>2 特別活動の内容(学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事)について、具体例や実習を通して、実践的指導法と評価手法を身につける。</li> <li>3 集団活動及び自己肯定感の醸成における特別活動の重要性について理解する。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 学生の授業評価を踏まえて、改善すべきところは改善する。		
<b>〔教科書〕</b> なし		
<b>〔指定図書〕</b> なし		
<b>〔参考書〕</b> 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」 その他必要に応じて提示する。		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎時間、「ふりかえりレポート」を含む講義テキストを提出。</li> <li>2 最終授業で全体の理解度を図る「ふりかえりテスト」を行う。</li> </ol>		

〔評価の基準及びスケール〕

A: 80 点以上 B: 70～79 点 C:60～69 点 D: 50～59 点 F: 50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

オリジナルの講義テキスト(簡易なレポート含む)を利用し、効率よく学習が進められるようにする。講義テキストにはコメントを記して返却することで、講義内容のふりかえりを促す。

講義は講義テキストに沿って進め、パワーポイントで適宜資料等を提示する。講義をしっかりと聞き、講義テキストをきちんと提出することが基本である。

7 回の授業中、3 回の欠席で単位認定資格を失う。(遅刻・中抜け・早退は合計 3 回につき 1 回の欠席とみなす)

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション_ 学校とは何か</p> <p>内 容: 特別活動について学ぶ前提として、「学校」の意義と役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会における学校の意味</li> <li>・人間の生涯における学校の意味</li> </ul> <p>教科書・指定図書</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の内容と目標、意義</p> <p>内 容: ① 小学校、中学校、高等学校の教育課程における特別活動の内容と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>② 特別活動の意義</li> <li>③ 特別活動の歴史</li> </ul> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動と教育課程</p> <p>内 容: ① 各教科との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>② 総合的な学習の時間との関係</li> <li>③ 道徳教育との関係</li> </ul> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の具体的指導法と評価</p> <p>内 容: ① 学級活動／ホームルーム活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>② 生徒会活動</li> <li>③ クラブ活動</li> <li>④ 学校行事</li> </ul> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動と生徒指導</p> <p>内 容: 学習指導要領に掲げる生徒指導の指導原理に基づき、特別活動の諸場面における指導について講義し、演習を通して実践力を身に付ける。</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動と進路指導・キャリア教育</p> <p>内 容: 学習指導要領に掲げる進路指導・キャリア教育の指導原理に基づき、特別活動の諸場面における指導について講義し、演習を通して実践力を身に付ける。</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動と社会奉仕体験活動・ボランティア活動</p> <p>内 容: 社会奉仕体験活動の学校教育における位置づけとボランティア活動の社会的意義及び特別活動の諸場面における指導について講義し、演習を通して実践力を身に付ける。</p> <p>※ 全体のふりかえりテストを行う。</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> 憲法概論	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 小林 直樹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>「憲法」という言葉を見聞きすると、政治家や政治に関心のある人の主義・主張を連想する人は少なくありません。しかし、実際には憲法は私たちにとって非常に身近なものといえます。つまり、私たちの生き方や国のあり方を左右し、現在および将来の人々の基本的人権、例えば、プライバシー権、性差別等を禁ずる平等権、思想・良心の自由や表現の自由等の自由権、生存権や教育を受ける権利等の社会権、主権者としての参政権の保障にかかわる法とも言えます。そのため、私たちは—— 専門家にならないにしても—— 自分らの権利や自由を確かなものとするために、教養としての憲法の知識を身につける必要があります。</p> <p>そこで、本講義は、憲法が定める“基本的人権は何か?”、それらを支える“基本原理とは何か?”を考え、併せて、人権を保障するための手段としての統治機構、すなわち国会(立法)・内閣(行政)・裁判所(司法)といった各機関の概念のほか、各機関の相互の関係(抑制と均衡)、地方自治について学びます。また、憲法の抽象的な説明にとどめず、新聞記事やニュースで取り上げられた時事問題などの具体的事例をとりあげ、憲法が受講生にとって身近な法であると感じられるよう、展開しようと考えています。</p> <p>本講義では、中学・高校の公民や現代社会などで学んだ知識を基盤としつつ、日本国憲法およびそれに関連する法(法律や条例、国際法)について、具体的な時事問題を通じて憲法の「考え方」を身につけることを目的とします。</p> <p>なお、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もありえます。</p>		
<b>〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>本講義の目標は、まずもって教養としての憲法の「考え方」を修得することです。しかし、憲法は、時代や国・地域によって異なり、その「考え方」も異なります。また、社会現象(自然環境の維持や動物の福祉、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方、生命倫理、情報化社会における個人情報保護、AI の進化、企業と人権問題、難民問題等)から影響を受けてダイナミックに変化もします。受講生各自が多様化する現代社会を意識し、興味関心のある分野(自然科学・人文科学)を学ぶことで、憲法の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、憲法の「考え方」をいっそう深化させ、複眼的見方を得て、憲法の「考え方」を実践できるようになると考えます。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>まず憲法の「考え方」を理解するために、憲法に関する基本的な用語を理解することを中間目標として設定しています。以下の点を最終目標として修得してほしいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 憲法の基本的な用語を理解し、説明できるようになる。</li> <li>(2) 憲法の「考え方」(学説や裁判例)を理解する。</li> <li>(3) 憲法の「考え方」を理解したうえで、その内容を説明できるようになる。</li> <li>(4) (1)～(3)をもとに、社会における憲法にかかわる問題について自分の考えを説明できるようになる。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>		
<b>〔教科書〕</b> とくに指定しません。 必要に応じて、参考となる書籍を紹介します。		
<b>〔指定図書〕</b> 芦部信喜『憲法(第8版)』(岩波書店、2023)、小林直三ほか『判例で学ぶ憲法』(法律文化社、2022)		
<b>〔参考書〕</b> 渡辺康行ほか『憲法 I [第2版]基本権』(日本評論社、2023)、同『憲法 II 総論・統治』(日本評論社、2020)、長谷部恭男『憲法(第8版)』(新世社、2022)、松井茂記『日本国憲法(第4版)』(有斐閣、2022)、辻村みよ子『憲法(第7版)』(日本評論社、2021)、加藤一彦ほか『フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤』(北樹出版、2020)など。		
<b>〔前提科目〕</b>		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>前記「科目の到達目標」で記したとおり、用語の理解ことどもらず、多様な「考え方」を理解し、自分の言葉で説明することが本講義の目指すところです。</p> <p>なお、講義に出席しただけでは、学んだことが知識として定着することは困難と考えます。1回の講義につき予習・復習を行い、全15回の講義で十分に予習・復習が実行されていることも評価していきたいと考えます。すなわち、講義中に、前回学んだ内容についての確認の質問や、予習が実行されているか確認の質問を行い、受け身の受講ではなく、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価したいと考えます。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>原則、定期試験100%により評価を行います。</p> <p>試験の評価基準については、科目の到達目標の達成度を測ることになります。</p> <p>なお、講義への積極的な参加をも評価します。習熟度を確認するため、受講生に、時折、質問を投げかけます。それに対する応答等の発言者に対しては加点を行う予定です(正解・不正解は問いません)。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>本講義で学ぶ内容は、社会の出来事、つまり社会現象と無関係ではない憲法に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、実社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、教養としての憲法を学ぶことにつながるからです。</p> <p>また、前記「評価の方法」と「評価の基準」において触れたように、講義中、受講生に、時折、質問を投げかけます(正解・不正解は問いません)。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言や応答を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいとも思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して受け身になるのではなく、教員とのコミュニケーションや他の受講生とのコミュニケーションを積極的におこない、講義が自己の成長発達の間となることを意識して受講してほしいと願っています。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨン—— 憲法とは何か——</p> <p>内 容: 本講義の進め方や方針について説明したのち、法とは何か、また憲法とそのほかの法律とはどう違うのか、ということについて入門的な説明をします。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国民主権と象徴天皇制</p> <p>内 容: 日本国憲法の基本原則の一つである国民主権について、象徴天皇制(「天皇制」の歴史を含めて)を通じて学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 幸福追求権: プライバシー権について考える①</p> <p>内 容: 憲法 13 条が保障する「幸福追求権」とは何かについて考え、その際、プライバシー権(個人情報の保護)を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): プライバシー権について考える②</p> <p>内 容: 第3回の講義内容を踏まえ、プライバシー権のうち、自己決定権、とりわけ、安楽死と尊厳死について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 平等権</p> <p>内 容: 憲法 14 条が保障する「平等」について考えます。その際、憲法 14 条 1 項が列挙する禁止事項のほか、近時問題となる差別問題(LGBT など)について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 信教の自由</p> <p>内 容: 憲法 20 条が保障する「信教の自由」ほか、政教分離について考えます。信教の自由については、信仰の自由の保障が絶対的なのか否かを学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):表現の自由—ヘイト・スピーチ問題—</p> <p>内 容:憲法 21 条が保障する「表現の自由」について、近時問題となっている差別的表現(ヘイト・スピーチ)について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済的自由—職業選択の自由—</p> <p>内 容:事業を行うさいに「資格」や「許可」が必要となるのかを、近時問題となる営業にかかわる具体的な事例を通じて学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):生存権</p> <p>内 容:憲法 25 条が保障する「生存権」について、近時問題となっている格差社会や、生活保護申請に対する水際対策等、人の生存にかかわる具体的な事例を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育権</p> <p>内 容:憲法 26 条が保障する「教育権」について、義務教育の内容と意義、教育格差について触れつつ、具体的な事例を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):刑事手続・人身の自由</p> <p>内 容:憲法 36 条が定める「残虐な刑罰」の禁止は、死刑制度を否定するものか否かを学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):国会</p> <p>内 容:憲法の基本原理である「権力分立」について理解を深めつつ、国民主権や国民代表制について学んだうえで、たとえば代表者である国会議員のリコール制度の可能性について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):内閣</p> <p>内 容:議院内閣制と大統領制を比較しつつ、日本における議院内閣制について学び、たとえば、国民が直接内閣総理大臣を選出する「首相公選制」の可能性について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):裁判所</p> <p>内 容:裁判員制度を通じて、日本の司法を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):地方自治</p> <p>内 容:憲法第 8 章(92 条から 95 条)に定める「地方自治」について、その歴史的な成り立ちや日本における自治制度を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
試験	<p>筆記試験を実施します。講義中に扱った範囲から出題します。</p>

<b>〔科目名〕</b> 教育方法と情報通信技術	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修)
<b>〔担当者〕</b> 鈴木郁生 SUZUKI Ikuo	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に明示する <b>場所:</b> 614 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 優れた教員となるには、教育の方法や理論、そして情報通信技術という現代的な課題について理解し、それを実践的に活用する能力が必要である。そこで本授業では歴史的経緯や人間の認知過程を踏まえつつ、理論に裏打ちされた教育方法・技術について学習する。また、情報化の進んだ社会を見据え、教員として必要とされる情報通信技術とその活用および情報通信技術育成のための指導法を理論的かつ実践的に学ぶ。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 本科目は、教育職員免許法に定められた「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、特に「教育の方法及び技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項に関わる科目である。そのため、教職課程の必修科目として定められている。 教壇に立つには、ただ教える教科の知識を持つだけでは充分だとは言えない。教育方法について深い理解があつてこそ、授業設計にも幅が出来、自らの教授法を客観的に評価出来る。本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 概ね良好な評価を頂いている。今後もさらなる改善に努めたい。		
<b>〔教科書〕</b> なし。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> 授業時に適宜紹介する。		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 授業時の課題などによって、総合的に判断する。		

**〔評価の基準及びスケール〕**

課題等により、総合的に評価する。

A: 100～80 点

B: 79～70 点

C: 69～60 点

D: 59～50 点

F: 49～ 0 点

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

理論的な部分については、退屈に思えるかもしれない。ただ、そうした理論が実践にも結びつくものである。受講者の理解が進むよう、具体的な例を挙げながら授業を進める予定である。受講者も好奇心を持ち、自らの経験等に照らしながら学習を行ってもらいたい。

**〔実務経歴〕**

該当しない。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション・教育方法の歴史と基礎理論 内 容: 初回授業であるので、授業展開等について説明する。そして教育方法の歴史や基礎理論について解説する。  教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 教育における基礎的要件 内 容: 教員や教室などの要件について、エビデンスを踏まえつつ理解する。  教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 学びに関わる認知過程 内 容: 学習・教授法に背景にある認知過程について学ぶ。  教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 子どもの理解と評価の理論 内 容: 学力、知能などに関する理解と、教育評価に関する学習を通して、人を測定することについて深く理解する。  教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 学習教授法 内 容: 様々な学習教授法について学ぶ。  教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 学習教授法および協同学習の理論と方法 内 容: 認知過程を踏まえ、学習教授法と協同学習に関わる理論と方法を学ぶ。  教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 授業展開の理論と方法 内 容: 授業環境を含め、授業デザインについて学ぶ。  教科書・指定図書

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術の基礎と活用          内 容: 教育場面を中心として情報通信技術の基礎的な知識を学び、その発展について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術を活用した教材と学習教授法          内 容: 情報通信技術を活用した教材と学習教授法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術を活用した学習教授法と特別支援          内 容: 情報通信技術を活用した教材と学習教授法について学びつつ、特別支援教育における情報通信技術について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): オンライン教育の方法と授業デザイン          内 容: オンライン教育の方法を中心に、授業環境と授業デザインについて学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報セキュリティと教育データの活用          内 容: 情報セキュリティと教育データの活用について理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術に基づく校務と学校環境・連携          内 容: 授業以外の校務等において有用な情報通信技術について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報活用能力の育成          内 容: 情報活用能力の育成について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術を用いた授業実践の方法          内 容: 情報通信技術を用いた授業体験を通して、教育方法の実践的理解を求める。</p> <p>教科書・指定図書</p>

<b>〔科目名〕</b> 進路指導の理論と方法	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修科目)
<b>〔担当者〕</b> 内海 隆 Uchiumi Takashi	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業の初回に提示する。 <b>場所:</b> 504 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 1999(平成11)年の中央教育審議会答申で、進路指導に関しては「キャリア教育」の観点からその重要性が取りあげられた。(ここでの「キャリア教育」とは、進路指導<キャリアガイダンス>と同じ内容である。) 本講義では進路指導とキャリア教育との関係を踏まえながら、高校生レベルの進学指導や就職指導に終始することなく、生徒個々人の生き方、在り方、そして働き方に関わる進路指導全般について講義する。特に実際の講義では、進路指導の歴史や理論についての基本的な理解をしてもらうことを念頭に進める。 なお、本科目は講義形式だけでなく、自己の職業観の確立を念頭におきながら必要に応じて エクササイズ及び発表形式も取り入れて進める予定である。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> 商業免許状を取得する経営学科の学生は、秋学期に「職業指導」を必修科目として履修することになるので、その点を考慮して授業を展開する。 教職を目指す個々学生のキャリア形成と「生きる力」に培われたライフデザイン力の向上につながる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 進路指導は、生徒に将来どのような職業に就き、どのような働き方をして、どのような生き方をしたいのかを様々な事例から考えさせることにある。したがって、現代(いま)に生きる子ども達の生活・意識の実態を理解することからはじめて、進路指導における◎ 人間関係形成力、◎ 情報活用力、◎ 将来設計力、◎ 意思決定力の4つの能力を理解する。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 授業スタイルと内容に関し、適宜、変更を加えて進めることがあるが、進路選択に関する「キャリア・マトリックス簡易カード(OHBY カード)」分析などの実践的活用による自己分析、職業適性検査も実施する。		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない。(教員が作成した講義概要、資料等のプリント冊子を作成・配布する。)		
<b>〔指定図書〕</b> 吉田辰雄ほか『進路指導・キャリア教育の理論と実践』、日本文化科学社 寺田盛紀『日本の職業教育』、晃洋書房		
<b>〔参考書〕</b> 講義の際に、適宜、紹介する。		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 進路指導の実際について、模擬指導のレポートと提示した小論文に関するコメント文を提出してもらい、それぞれ 5 割の配分で評価する。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A: 100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49～ 0点		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 高校生の進路指導・職業指導・キャリア教育が本科目の視点であるが、学生諸君の自らのふり返りと将来の働き方・生き方と重ね合わせながら学修をすすめてほしい。		

〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導の意義と課題(ガイダンス)          内 容:進路指導とはなにか、高校生の進路の現状          ＊ホルンドの理論に基づく事前自己チェック          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導とキャリア教育          内 容:キャリア教育が求められる背景          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導の歴史と諸外国の実情          内 容:ガイダンス理論、アメリカ、ドイツ、日本の進路指導の紹介          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)、DVD視聴</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):職業観、勤労観の形成と変容          内 容:従来型進路指導とキャリア教育の違い          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代における就業構造の変化Ⅰ          内 容:若者の就業実態(MBAとヤッピー、ニート、フリーター)          経営家族主義と終身雇用制、任期制と年俸制、正規雇用と非正規雇用ほか          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代における就業構造の変化Ⅱ          内 容:男女共同参画基本法と関連法規、女性の就労形態(M型)ほか          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校における進路指導の実際とキャリア教育          内 容:生き方教育、キャリア教育、進路指導          キャリア発達課題と4つの能力課題、「人生100年時代の社会人基礎力」について          「計画された偶発性理論」と「キャリア・トランジション」          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育          内 容:高等学校学習指導要領の内容とキャリア教育、高校生の職業と進路          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):ホームルーム経営と進路指導          内 容:生き方指導と進路指導          「働く」ということ、社会的自己実現について、「キャリア・アンカー」論          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の推進体制と進路指導計画          内 容:職業、進路指導の計画と評価の活用          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導における家庭と学校の協同          内 容:家庭との連携          学校の校務分掌と協同体制          教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>

第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):定時制、通信制高等学校及び特別支援学校での職業・進路指導</p> <p>内 容:定時制、通信制高等学校の進路指導 特別支援学校での職業・進路指導</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリント冊子)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導に関する模擬指導</p> <p>内 容:教師のコンサルテーション、キャリアカウンセリング、アサーションほか *指導レポート提出</p> <p>教科書・指定図書(資料プリント)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):職業適性検査の周辺</p> <p>内 容:SPIテスト、YG検査、OHBY カード演習</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリント冊子、OHBY カード)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):雇用と労働に関する法制度と進路指導の整理</p> <p>内 容:雇用と労働に関する法制度の理解(雇用契約、就業規則ほか)</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリント冊子)</p>
試 験	実施しない。

[科目名] 中等教科教育法（商業Ⅰ）	[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 砂場 孝一郎 sunaba koichiro	[オフィス・アワー] 時間：授業実施日の昼食時間 場所：5階 非常勤講師控え室	[授業の方法] 講義 演習
[科目の概要]  <ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校の教科「商業」の教師に必要な商業教育に関する法知識について学習するとともに、商業科教師として備えるべき教科の指導方法や指導技術について学習する。</li> <li>春学期は、商業教育の理念、教育関連法規、教育課程の編成、教育方法などについての学習と、当該教科の指導能力の基礎を培うことを目的に、講義と演習（模擬授業）を行う。</li> </ul>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 1 2022年度から年次進行で実施される新高等学校学習指導要領は、生徒に「生きる力」を育むことを目標としている。具体的には、①生徒は何を理解しているか、そして何ができるか ②生徒は理解していることをどのように生かすか ③生徒はどのように社会と関わり、よりよい人生を送るか 以上3つの柱に目標を整理できる。 2 よって、以上の目標を達成するために「高校の商業科教師」を目指す学生は、この教科教育法の科目を学ぶことで、本学で別に修得するビジネスに関する専門科目の知識・技術を関係付けることができ、教師として授業を効果的・効率的に指導できる資質を養うことができる。 ・また、本科目を学ぶことによって、商業科教師の採用試験を受験するにあたっての基礎能力及び教育関連法令を身に付けられる。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 1 中間目標 ・商業教育の歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領の内容、商業教育の現代的課題及び今後の商業教育の方向性を理解させる。 ・商業教育が、現代においてどのような性格を持ち、効用があり、役割を果たしているかを理解させる。 2 最終目標 高校教育の教科「商業」を理解するとともに、適切に学習指導ができる教師としての資質を身に付けさせる。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]  <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでも学生の授業評価は、公正であり、客観性をもって実施した。よって、担当教員に対して板書内容や文字の丁寧さ、表現の方法などにも指摘があるので、留意したい。</li> <li>また、学期の途中において、学生から授業への要望などを確認して、「実質のある授業」にして、学生自身の教養の向上に努めていきたい。</li> </ul>		
[教科書] 高等学校学習指導要領解説 商業編 …… 必ず購入すること（秋学期の教育法商業Ⅱでも利用） ビジネス基礎（実教出版・青島矢一）…… 〃 〃 新簿記（実教出版・安藤英義）…… 〃 〃 情報処理（実教出版・並木通男）…… 〃 〃		
[指定図書]  本大学の図書館は、高校教育及び高校教師採用に関連する月刊誌等が、十分に閲覧できる環境にあるため、学生には授業を通じて紹介していく。		
[参考書] 「商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 実教出版株式会社 ISBN 978-4-407-34457-8 2019年10月15日 初版		

<p>[前提科目] 必要な教職科目を修得または履修していること</p>	
<p>[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修の課題 ～ ①筆記小テスト ②授業への参加状況 (出席しただけでは履修したことにはならない) ③課題レポートの提出 ④模擬授業への取り組み姿勢等を、学修の課題 (項目) とする。</li> <li>・上記学修の内容を、つぎの3つの評価の観点に基づき、総合的に絶対評価 をする。 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学修に取り組む態度</li> </ul>	
<p>[評価の基準及びスケール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆記小テスト、授業への参加状況、課題提出、模擬授業の実施等の学習意欲・学習態度等の質を事前に示している評価の観点に基づき、100点法で絶対評価する。</li> <li>・ 授業の中で課す課題レポートについては、学生が自分の意見を持つようとする意欲が評価の基準となる。</li> </ul>	
<p>[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省は、2018年に高等学校学習指導要領を改訂し、2022年度から年次進行で実施することとしている。本年度は、その3年目であり、完成年度である。よって、高校教員採用試験を初め、高校教育の全てが、この新高等学校学習指導要領に基づいて行われることに留意して欲しい。</li> <li>・ 授業では、青森県等の受験する県の実施要項を確認し、高等学校教育 特に、商業教育に対する 興味・関心を喚起するように務めて欲しい。</li> <li>・ 学生には、教員免許状取得のみを目的とするのではなく、教員採用試験の合格を目指して取り組んで欲しい。</li> </ul>	
<p>[実務経歴]</p> <p>「該当なし」</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：商業教育(ビジネス)とは 内 容：1 商業科教員の資質 2 商業教育の動向 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料による</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学校教育について 内 容：1 教育制度の概要 2 憲法、教育基本法、学校教育法等の法制度 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料による</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学校教育について 内 容：1 地方公務員法 2 教育公務員特例法 3 教育職員免許法 4 その他の法令 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：商業教育について 内 容：1 商業教育の変遷 2 商業教育の意義と必要性 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)：商業教育について 内 容：1 新学習指導要領 教科「商業」の概要説明 2 新学習指導要領 改訂のねらいの理解 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)：高等学校学習指導要領解説「商業編」の詳細</p> <p>内容：1 教育課程編成の視点と原則 2 具体的な教育課程の編成方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明</p> <p>内容：1 基礎的科目(科目名：ビジネス基礎)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明</p> <p>内容：1 マーケティング分野(科目名：マーケティング)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明</p> <p>内容：1 マネジメント分野(科目名：ビジネス・マネジメント)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明</p> <p>内容：1 会計分野(科目名：簿記)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明</p> <p>内容：1 ビジネス情報分野(科目名：情報処理)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学生による模擬授業の実施</p> <p>内容：1 基礎的科目(科目名：ビジネス基礎) 2 学生による模擬授業 3 授業指導案の出来映え・模擬授業の合評会</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学生による模擬授業の実施</p> <p>内容：1 会計分野(科目名：簿記) 2 学生による模擬授業 3 授業指導案の出来映え・模擬授業の合評会</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学生による模擬授業の実施</p> <p>内容：1 ビジネス情報分野(科目名：情報処理) 2 学生による模擬授業 3 授業指導案の出来映え・模擬授業の合評会</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)：春学期のまとめ、小テスト</p> <p>内容：1 新学習指導要領の目標と商業教育の方向性の確認 2 小テスト</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
試験	<p>第15回授業の中で、まとめを目的とした筆記小テストを実施する。</p>

[科目名] 商業実習	[単位数] 4単位	[科目区分] 教職課程
[担当者] 砂場 孝一郎 Sunaba koitiro	[オフィス・アワー] 時間：授業実施日の 昼食時間は対応可能 場所：5階の非常勤講師控え室	[授業の方法] 講義 演習
<p>[科目の概要]</p> <p>この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。そして、受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学ぶことを希望する。授業内容は、受講生諸君が教師として、高校生を商業に関する「将来のスペシャリスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるものである。</p> <p>受講する学生は、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養などにも配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。</p> <p>文部科学省は、2018年に、2022年度から年次進行で実施する新高等学校学習指導要領の改訂版を発表した。本年度はその3年目であり、完成年度でもある。文部科学省は改訂の基本的なねらいとして、①生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する ②これまでの教育内容を維持し、その質を更に高め、確かな学力を育成する ③道徳教育の充実等により、豊かな心や健やかな体を育成する の3点を示した。商業教育もこのことを基本にし、育成する資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を実施しなければならない。</p> <p>この新しい商業教育の内容・方向性を中心に、受講する学生に伝えていきたい。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]</p> <p>高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。</p> <p>商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、年々多様化してきている。</p> <p>このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。</p> <p>また、教育改革や働き方改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育法規をもとに商業教育の主要な動向等について理解するために、この科目を学ぶ必要性がある。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]</p> <p>商業科教師には、次の3つのことが求められ、この科目の目標とする。</p> <p>① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うための指導力が求められる。</p> <p>② 次に商業科教師には、高校生を望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成する、人としての資質が求められる。</p> <p>以上2つの資質を身につけることが、この科目の中間目標である。</p> <p>③ そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。</p> <p>以上の資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]</p> <p>学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。</p> <p>学生がこの科目で学んだことが、「中等教科教育法 商業Ⅰ・商業Ⅱ」での模擬授業等に生かされることが、この科目の目標の一つでもある。また、学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本となる。これまでの評価内容を授業改善に生かしていきたい。</p>		

<p>〔教科書〕</p> <p>購入は不要である。必要に応じて、商業、経済に関する資料、新学習指導要領等の資料を配賦する。</p>	
<p>〔指定図書〕</p> <p>「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編 実教出版</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>なし。</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>なし。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。          評価の方法は、①課題のレポート提出(2回予定)、②筆記小テスト(授業内で2度予定)、③プレゼンテーションの実施、④授業の履修態度を通して、学習意欲の有無・目標への到達度を判断し、絶対評価(100点法)で行う。          (因みに、授業に出席さえすれば単位認定されるとは限らない。)          そして、それを本学の定める評定方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>評価基準は、本学が定めている評定方法に従って行う。基準とスケールは次の通りである。          A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(50点以上) F(50点未満)          評価の観点は、①知識・技能 ②思考・判断・表現の各能力 ③学修に取り組む姿勢である。          数値化の難しい観点もあるが、教職課程の科目であることから、敢えて観点としたい。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>文部科学省は、2022年度から年次進行で実施される新学習指導要領を公表・実施した。そのために、担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、新要領の商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。因みに、教員採用試験の解答方法は、鉛筆での記述である。          なお、学生が授業を欠席する際の授業担当者への連絡は、原則として求めない。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション          内 容：講義の目的と内容、進め方、評価の方法について</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)          内 容：売買条件(商品の品質・数量・価格)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)          内 容：売買条件(受け渡し時期・受け渡し場所・代金の受払方法)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)          内 容：売買契約の締結(見積もり・注文)、はんこ(印鑑)の実務</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)</p> <p>内容：売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)</p> <p>内容：代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)、約束手形の制度廃止</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネス計算の基礎</p> <p>内容：度量衡・外国貨幣・割合、外国為替の基本</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネス計算の基礎</p> <p>内容：割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税の仕組み</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネス計算の基礎</p> <p>内容：仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネス計算の基礎</p> <p>内容：利息の計算・日数計算</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内容：ビジネスに対する心構え</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内容：学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内容：学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内容：基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内容：人間関係の重要性</p> <p>※ 筆記小テスト(1回目)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎</p> <p>内容：企業の形態と経営組織(1)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎</p> <p>内容：企業の形態と経営組織(2)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>

第18回	<p>テーマ(何を学ぶか) :企業活動の基礎          内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎          内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎          内 容 : 企業活動と税</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎          内 容 : 雇 用(働き方改革・労働関連法令)</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 経済社会と法          内 容 : 経済関連法の意義と役割</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権          内 容 : 権利と義務、物権と債権</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権          内 容 : 知的財産権</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法          内 容 : 契約と意思表示、売買契約と貸借契約</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法          内 容 : 債権の管理と回収、金融取引</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法          内 容 : 法令遵守、紛争の予防と解決</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法          内 容 : 消費者保護</p> <p>指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業教育の現状と課題          内 容 : 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路          2022年度実施開始の新学習指導要領の内容と商業教育の方向性について          指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業科教員になるには          内 容 : 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方改革の現状          ※ 筆記小テスト(2回目)          指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による</p>
試 験	<p>授業の中で、筆記小テストを2度 実施。(1度目は第15回の授業中・2度目は第30回 の授業中)。</p>

[科目名] 中等教科教育法 (公民I)		[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 長谷川 光治	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] ②
[科目の概要]  高等学校「公民」の、目的と目標、教育課程における位置づけと役割、教科構造の特質と理念、各科目の目標と内容構成について理解を深め、指導計画の作成、教材研究方法、指導案作成、模擬授業を、体験的、課題解決的に学び、教育現場における「公民」の実践的な教科指導力を養う。			
[「授業科目群」・他の科目との関連付け] 教養科目 1群～3群の各科目が、「公民」の教材研究、発掘・作成に関連する。 [なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 高等学校「公民」の教科指導に必要となる、授業の組み立てや学習指導案作成の実践力につなげるための、視点・知識の基盤となる。			
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] (1)公民教育の意義と公民科の目標、学習内容を理解する。 (2)教材研究の重要性を理解し、教材の発掘作成を实践する。 (3)学習指導案を作成し、模擬授業を行う。			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]			
[教科書]			
[指定図書]			
[参考書] 高等学校学習指導要領解説 公民編 平成22年6月 文部科学省 (教育出版 320円) 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成21年11月 文部科学省 (東山書房 223円)			
[前提科目] 「教育原理」「教育課程論」「教育心理学」「教育方法論」			
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 教材の発掘事例、指導案の作成、模擬授業、「分析・考察シート」、「自己評価シート」、課題レポート、課題作成と発表、発表課題についての相互評価と自己評価、出席状況を総合評価。			
[評価の基準及びスケール] 指導案・模擬授業・「模擬授業分析・考察シート」・「模擬授業自己評価シート」・課題レポートを総合的に評価。 (A:100～80 B:79～70 C:69～60 D:59～50 E:49～0)			
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] 「公民」の授業者となって教壇にあがることを意識し、授業に取り組むことを望みます。			

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション 内 容：学習目標と内容の確認、学習の進め方、「公民」教育について 教科書・指定図書 教員作成のプリントによる
第2回	テーマ(何を学ぶか)：「公民」教育の意義と学習指導要領 ① 内 容：公民教育の意義と学習指導要領 教科書・指定図書 教員作成のプリントによる
第3回	テーマ(何を学ぶか)：「公民」教育の意義と学習指導要領 ② 内 容：学習指導要領の変遷、社会科と公民科 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第4回	テーマ(何を学ぶか)：公民科の目標と教科構造 内 容：公民科の目標と教科構造 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第5回	テーマ(何を学ぶか)：授業研究 ③ 内 容：情報機材の活用と、題材の発掘 教科書・指定図書 「高等学校学習指導要領解説 総則編」教員作成のプリントによる
第6回	テーマ(何を学ぶか)：高等学校教育課程と公民科 内 容：教育課程の編成と公民科科目 教科書・指定図書 「高等学校学習指導要領解説 総則編」教員作成のプリントによる
第7回	テーマ(何を学ぶか)：公民各科目の学習内容 ④ 内 容：「公共」の科目の性格、目標、内容とその取り扱い。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第8回	テーマ(何を学ぶか)：公民各科目の学習内容 ⑤ 内 容：「倫理」の科目の性格、目標、内容とその取り扱い。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第9回	テーマ(何を学ぶか)：公民各科目の学習内容 ⑥ 内 容：「政治・経済」の科目の性格、目標、内容とその取り扱い。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第10回	テーマ(何を学ぶか)：学習評価 内 容：学習評価の意義と目的、観点別学習評価 教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料
第11回	テーマ(何を学ぶか)：指導計画と学習評価 内 容：指導計画の作成と指導上の配慮事項。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第12回	テーマ(何を学ぶか)：教材研究のあり方 内 容：教材研究のあり方(科学研究と教材研究)、研修のあり方 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第13回	テーマ(何を学ぶか)：学習指導案の作成 内 容：学習指導案の考え方、事例と作成 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第14回	テーマ(何を学ぶか)：授業研究 ⑦ 内 容：題材の発掘と教科書の活用、情報機材の活用 教科書・指定図書 高等学校指導要領解説 教員作成のプリントによる
第15回	テーマ(何を学ぶか)：授業研究 ⑧ 内 容： 題材の発掘と教科書の活用、情報機材の活用 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
試 験	課題レポート

(様式1)

<b>〔科目名〕</b> 教育実習事前事後指導	<b>〔単位数〕</b> 1単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 鈴木 郁生・内海 隆・西村吉弘 Suzuki Ikuo・Uchiumi Takashi・ Nishimura Yoshihiro	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業時に提示する。 <b>場所:</b> 同上	<b>〔授業の方法〕</b> 講義・演習
<b>〔科目の概要〕</b> 春学期に開講する教育実習事前指導は、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案(授業案)の作成および板書指導も含めた模擬授業を通して実践的な指導を行う。 教育実習後の事後指導では、学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて実習報告の形式で総括し、「教職実践演習」につなげる。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性等も考えることにつながる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および教科・科目を中心とした学習指導などの基礎・基本を確実におさえる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば応える。		
<b>〔教科書〕</b> 本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を随時配布する。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> 商業・公民に関わる教科書。 その他必要に応じて提示する。  <商業関係の教科書> ※ 公民教科書(図書館に配架済み)の詳細は省略する。 『ビジネス基礎』 商業 701 実教出版 『ビジネス・コミュニケーション』 商業 704 実教出版 『マーケティング』 商業718 実教出版 『商品開発と流通』 商業732 実教出版 『観光ビジネス』 商業738 実教出版 『ビジネス・マネジメント』 商業706 実教出版 『グローバル経済』 商業734 実教出版 『ビジネス法規』 商業740 実教出版 『新簿記』 商業709 実教出版 『高校簿記』 商業708 実教出版 『新財務会計』 商業728 実教出版 『高校財務会計』 商業727 実教出版 『原価計算』 商業720 実教出版 『財務会計II』 商業742 実教出版 『管理会計』 商業746 実教出版 『情報処理 Prologue of Computer』 商業716 実教出版 『最新情報処理 Advanced Computing』 商業715 実教出版 『ソフトウェア活用』 商業736 実教出版 『最新プログラミング オブジェクト指向 プログラミング』 商業724 実教出版 『プログラミング マクロ言語』 商業725 実教出版		

『ネットワーク活用』 商業749 実教出版 『ネットワーク管理』 商業751 実教出版	
<b>〔前提科目〕</b> 3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法(商業Ⅰ・Ⅱ)」、「中等教科教育法(公民Ⅰ・Ⅱ)」、「商業実習」	
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 事前指導(模擬授業等、レポート)及び事後指導(実習報告発表、所定様式のレポート)、教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。 なお、実際の評価にあたっては、3人の専任教員による。	
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A:100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49～ 0点	
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に向かい行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分に行っておくことが大切である。なお、実習校における教育実習終了後の事後指導としての実習報告も重視する。	
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):事前指導① 内 容:教育実習の目的と意義、教育実習の留意点  教科書・指定図書 『教育実習の手引き』
第2回	テーマ(何を学ぶか):事前指導② 内 容:授業参観の方法と教材研究 『教育実習日誌』について  教科書・指定図書 『教育実習の手引き』(ほか)
第3回	テーマ(何を学ぶか):事前指導③ 内 容:学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞  教科書・指定図書 『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴)
第4回	テーマ(何を学ぶか):事前指導④ 内 容:学習指導案作成と模擬授業(1)  教科書・指定図書 『教育実習の手引き』、『学習指導要領』(ほか)
第5回	テーマ(何を学ぶか):事前指導⑤ 内 容: 学習指導案作成と模擬授業(2)  教科書・指定図書 『教育実習の手引き』、『学習指導要領』(ほか)

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導⑥          内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導⑥          内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
試 験	<p>実施しない。各自が実習の報告と指定様式の「教育実習報告書」を提出する。</p>

<b>〔科目名〕</b> 教育実習	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 鈴木 郁生・内海 隆・西村吉弘 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkakashi・ Nishimura Yoshihiro	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に明示する <b>場所:</b> 同上	<b>〔授業の方法〕</b> 実習
<b>〔科目の概要〕</b> 実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関するもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教職への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限り少なくするように配慮する。		
<b>〔教科書〕</b> なし。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> 商業・公民の教科書。詳細は授業時に指示する。 その他、資料集等。 『ズームアップ公共資料』 実教出版 978-4-407-36312-8 『ズームアップ政治・経済資料』 実教出版 978-4-407-36313-5 『最新公共資料集』 第一学習社 978-4-8040-5412-4 C7030 『クローズアップ公共』 第一学習社 978-4-8040-5413-1 C7030 『テオリア 最新倫理資料集』 第一学習社 978-4-8040-5425-4 C7012 『最新政治・経済資料集』 第一学習社 978-4-8040-5427-8 C7030 『テーマ別資料 公共』 とうほう 978-4-8090-6576-7 『フォーラム公共』 とうほう 978-4-8090-6577-4 『アプローチ倫理資料PLUS』 とうほう 978-4-8090-6578-1 『政治・経済資料』 とうほう 978-4-8090-6579-8 『テーマ別資料 政治・経済』 とうほう 978-4-8090-6580-4		
<b>〔前提科目〕</b> 「教育実習事前事後指導」		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の3名の専任教員による。 なお、新型コロナウイルス感染防止の影響により実習校での期日等の変更には、臨機応変に対応する。		

**〔評価の基準及びスケール〕**

A:100～80 点  
B: 79～70 点  
C: 69～60 点  
D: 59～50 点  
F: 49～ 0点

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

教育実習の事前指導での教育実習全般の理解を深めたことをふまえ実習に臨むことを期待している。また、実習期間中は、新型コロナ禍であることを配慮しつつ実習校と連絡をとり、実習の成果が上がるように努める。

**〔実務経歴〕**

該当なし。

授業スケジュール

実習期間 (2～3週間)	教育実習校(高等学校)において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で「ホームルーム指導」、「授業観察」や「授業及び研究授業」等を行う。
-----------------	--